



Power Automate と Power Automate for desktop の違い

Microsoft 社が提供している Microsoft 365 は、Office 製品のサブスクリプションサービスとなり、多くの企業で利用されています。本書では、Microsoft 365 にライセンスが付属し、業務の自動化が図れるツール「Microsoft Power Platform（以下、Power Platform）」の 5 つのサービスに含まれ、クラウド上で業務の自動化を行う Microsoft Power Automate（以下、Power Automate）と、Windows 10、または 11 に付属し、デスクトップ上で PC 操作の自動化を行う Power Automate for desktop（以下、Automate for desktop）について解説します。

目次

1. Power Automate が付属されている Power Platform とは..... 2
2. Power Automate と Power Automate for desktop の違い 3
3. Power Automate と Power Automate for desktop の活用例 4
4. 終わりに 6

1. Power Automate が付属されている Power Platform とは

Power Automate と Power Automate for desktop の違いを解説する前に、Power Automate が付属されている製品である Power Platform とは何かという点について簡単に解説します。

Power Platform は、ビジネスニーズに合わせたカスタムアプリをローコードで作成できるクラウドサービスです。Power Platform は 5 つの製品で構成されています。

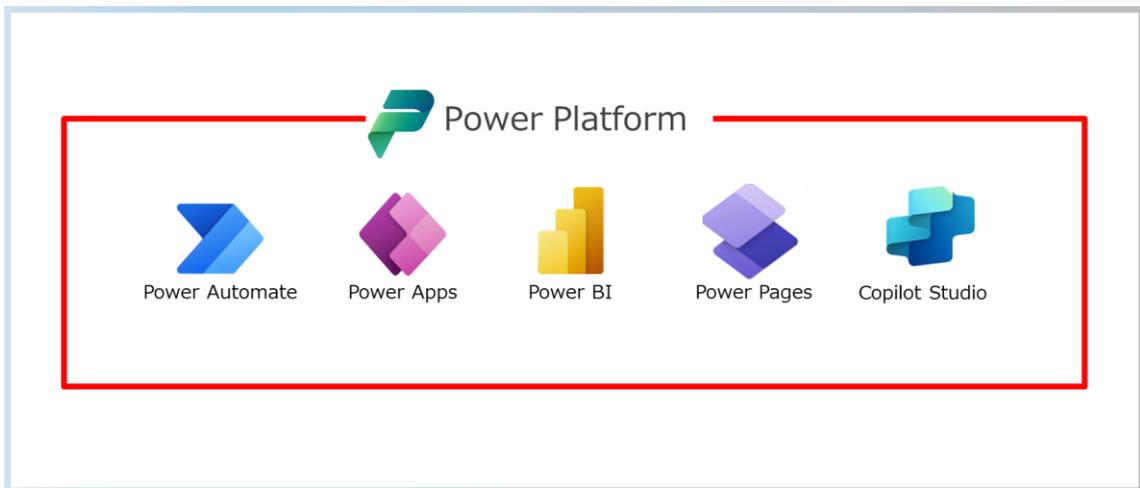


図 1. Microsoft Power Platform の製品群

- **Power Automate**

繰り返される業務プロセスの自動化、スケジュール化可能なワークフローの作成時に利用されるツールです。標準で提供されているさまざまなコネクタ※を組み合わせることで、Microsoft 365 内外のプロセスを自動化できます。

※：コネクタとは、Microsoft が用意した、サービスやシステムと連携できる API のことを指します。Teams や SharePoint などの Microsoft 365 サービスや、SAP、Oracle など外部連携サービスのコネクタなど数百種類のコネクタがあります。

- **Power Apps**

ビジネスニーズに合ったアプリを短時間で構築できる製品です。主に、Excel や SharePoint などのデータソースと接続して、データを参照、登録するアプリケーションを作成できます。

- **Power BI**

Excel のような操作感覚でデータベースや Excel ファイルにあるデータを収集し、解析や予測、データ分析、可視化、レポートをダッシュボードにまとめたりする時に活用する製品です。ノンプログラミングでデータ分析ができます。

- **Power Pages**

Power Platform と連携可能な外部向けの Web サイトをすばやくローコードで構築し、作成するツールです。テンプレートを使用し簡単に Web サイトを作成、用途に合わせてカスタマイズできます。

- **Copilot Studio**

Microsoft 365 Copilot（生成 AI を使用して Microsoft の各種アプリを連携するサービス）をカスタマイズするための会話型 AI プラットフォームです。

※旧 Power Virtual Agents は、2023 年 11 月に Copilot Studio の一部となりました。

2. Power Automate と Power Automate for desktop の違い

Power Automate は前章の通り、Power Platform 製品の 1 つです。Power Automate for desktop は Power Platform には付属しておらず、Windows 10、11 に付属（Windows 10 で利用する場合は、別途インストールが必要）しているアプリケーションの 1 つです。

Power Automate と Power Automate for desktop は、どちらも同じ Microsoft 社の製品で、さまざまな定型業務を自動で処理してくれる仕組みを作成できるという点で共通しています。しかし、付属製品が異なるなど、機能詳細について相違う特長を持っています。

Power Automate はクラウドサービスです。クラウドサービスであるが故に、ブラウザで開発できる特長を持っており、自動化する対象の範囲は Power Automate for desktop よりも広く、コネクタを利用して Microsoft 製品との連携はもちろんのこと、それ以外の SAP や Oracle などの外部連携も可能です。ただし、コネクタがないシステムへの連携は難しく、デスクトップのアプリケーション操作はできないという考慮が必要です。

一方、Power Automate for desktop は、Windows 10、11 を利用していれば無償で使えます。デスクトップのアプリケーションや Web システムを含め PC 上で行う操作を自動化でき、自動化する範囲は PC 上の操作に絞られます。画面の UI に変更があった場合は確認する必要があります。

表 1. Power Automate と Power Automate for desktop の違い

	Power Automate	Power Automate for desktop
フローの種類	クラウドフロー	デスクトップフロー
実行場所	クラウド上	PC 上
開発方法	ブラウザで開発	クライアントアプリで開発
自動化対象	用意されたコネクタの範囲 参照 URL : すべての Power Automate のコネクタの一覧	デスクトップアプリ、Web システムを含めた PC 上で行うさまざまな操作
ライセンス	Microsoft 365 のライセンス保有で無償	Windows 10、11 を利用していれば無償
メリット	コネクタを利用するため、画面の UI（デザイン等）に変更があっても動作に影響を受けにくい	PC 上で操作するさまざまな操作が自動化できる
デメリット	コネクタが用意されていないサービスやデスクトップアプリは操作ができない	画面の UI（デザイン等）に変更があった場合に動作に影響を受けやすく修正が必要になる

3. Power Automate と Power Automate for desktop の活用例

2 章で解説した特長を活かし、業務によって Power Automate と Power Automate for desktop どちらのツールを用いることが適しているか例を挙げながら解説します。

Power Automate

- 添付ファイルの自動保存

Outlook で受信したメールの中で、添付ファイルがある場合に所定のフォルダ（OneDrive）に自動保存する自動化を考えてみましょう。Power Automate には、Outlook・OneDrive を操作するコネクタが用意されています。Power Automate のコネクタのみで自動化処理ができるので、Power Automate for desktop と比較して生産性も高く、品質も安定した自動化が実現できます。Power Automate では、従来の RPA のように Windows の要素やアクションを組み合わせることで処理の実現ができます。また、動作環境としても、Power Automate for desktop の場合は専用 PC を用意する必要があ

り、Power Automate はクラウド環境で動くため、1つのPCを占有することはありません。開発のしやすさだけでなく、自動化される処理がいつ、どこで稼働するかを考慮して用いるツールを選択することが重要です。



図 2. Power Automate のコネクタ（一例）

Power Automate for desktop

- **データ移行**

システム再構築時のデータ移行を考えてみましょう。移行元、移行先のシステムがスクラッチシステムであれば、データベースに直接アクセスできるので SQL Server などを利用して比較的容易にデータ移行が可能です。パッケージを利用しているなどでデータベースに直接アクセスできない場合は、画面を開き、該当項目を表示して手動でコピー＆ペーストするなどの手作業が発生するため作業効率が悪くなる傾向にあります。このような繰り返し処理が必要な業務は自動化に向いています。データ移行元もしくはデータ移行先のパッケージが SAP や Salesforce など Power Automate にコネクタが用意されていれば、Power Automate でも自動化（移行データの作成）は可能かもしれません。しかし、コネクタが用意されていない場合や、クラウドサービスではない PC 上のファイルやアプリケーションなどを操作してデータ移行する場合、Power Automate で自動化するにはカスタムコネクタを作成するなど高度な技術スキルが必要なため、Power Automate for desktop での自動化をおすすめします。

今回挙げている活用例はごく一部です。Power Automate・Power Automate for desktop それぞれの製品でできることを見極めたうえで適したツールを選択することが重要です。

4. 終わりに

今回は Power Automate と Power Automate for desktop の違いについて解説しました。製品名は似ていますが、機能はもちろんのこと、クラウドフローとデスクトップフローである点など大きな違いがあります。自動化する業務に合わせて、2つの製品を使い分ければ、より効率化を図るツールとして最大限に活用できるでしょう。

ローコード開発製品は、目まぐるしく変化しているビジネス環境において、スピードや柔軟性が必要とされる中、DX 推進を加速させるための開発手法として注目されています。その中で、Microsoft 365 に付属されている Power Platform は、付属されている製品で利用できるというメリットがあり、ローコード開発もできるという点で有効的な活用方法といえます。

tdi では、Power Platform の導入支援として、本書で焦点を当てた Power Automate と Power Automate for desktop の導入サービスをご提供しております。安全・効率的に利用いただくために、お客様の状況や推進方針に合わせた導入・開発・運用フェーズにおけるルールや仕組みをガイドラインとして作成します。また、はじめてサービスを利用する方向けに、貴社の環境に合わせた貴社独自のマニュアルを作成するサービスもごございます。

その他、Power Platform を活用したい方へのスキル習得やサポートサービスとして、担当者のレベルに合わせた複数の育成講座などもごございますので、詳しくは tdi の Power Platform サービス Web サイト、またはサービス資料をご覧ください。

<tdi の Microsoft Power Platform サービス>

<https://www.tdi.co.jp/solution/powerplatform>

<tdi の Microsoft Power Platform サービス資料ダウンロード>

<https://tdi.smktg.jp/public/application/add/7266>

また、Power Automate、Power Automate for desktop、Power Apps の開発支援も行っています。ご相談やご依頼などがございましたら、どうぞお気軽にお問合せください。

※Microsoft 365、Windows、Power Platform、Power Automate、Power Automate for desktop、Power Apps、Power BI、Power Pages、Copilot Studio、Power Virtual Agents、Teams、Excel、SharePoint、SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

※SAP は SAP SE の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



※Oracle は Oracle International Corporation とその子会社および関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

※Salesforce は、salesforce.com,Inc.の商標または登録商標です。

【お問い合わせ】

tdi 情報技術開発株式会社 営業本部

東京:〒163-1332 東京都新宿区西新宿六丁目 5 番 1 号 新宿アイランドタワー32 階

TEL. 03-5325-4811(代表) FAX.03-5325- 4812

中部:〒451-6027 愛知県名古屋市西区牛島町 6 番 1 号 名古屋ルーセントタワー27 階

TEL.052-571-6871(代表) FAX.052-571-3856

関西:〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島二丁目 2 番 7 号 中之島セントラルタワー20 階

TEL.06-6201-7739(代表) FAX.06-6201-7740

九州:〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目 10 番 1 号 JR 博多駅東 NS ビル 7 階

TEL.092-451-8218(代表) FAX.092-474-7379